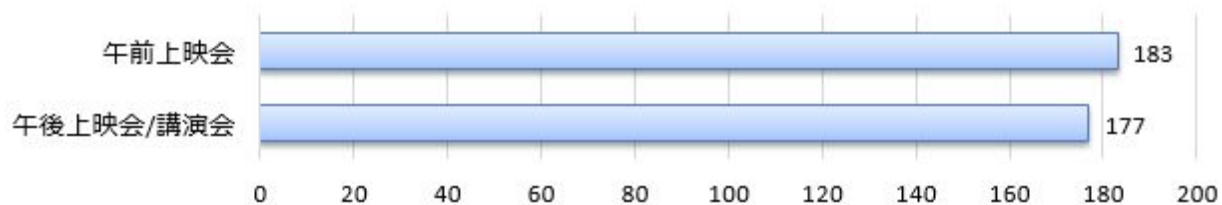


映画「みんなの学校」我孫子上映会・講演会 アンケート集計結果

来場者数：908名
アンケート回答数：360件
アンケート回答率：39.6%

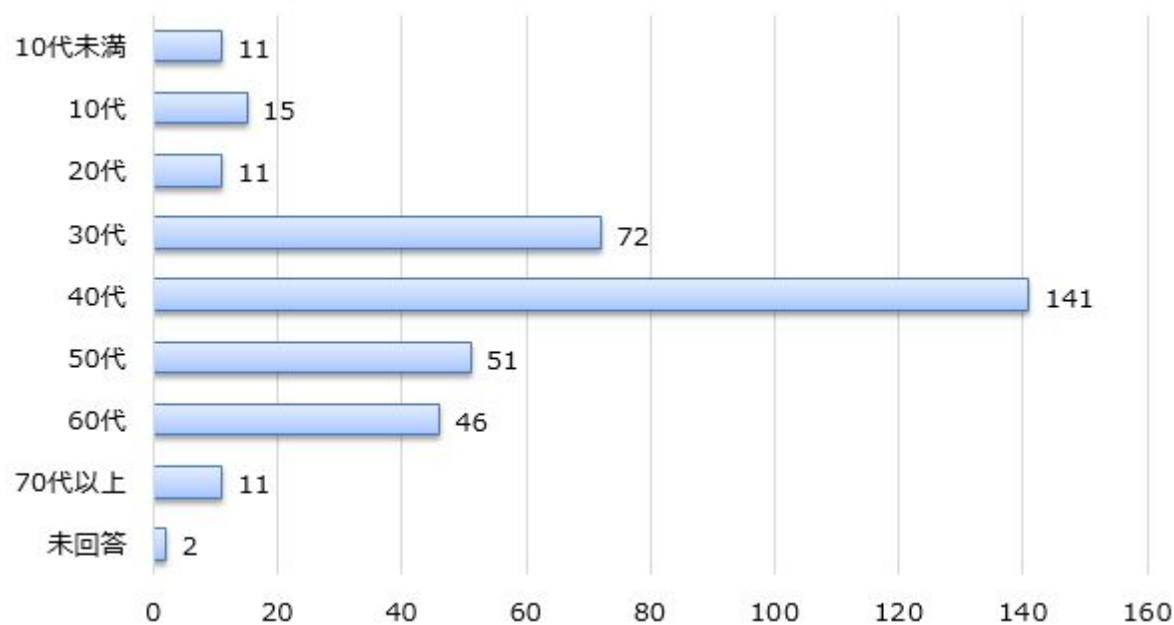
1. ご覧になった上映会はどちらですか？



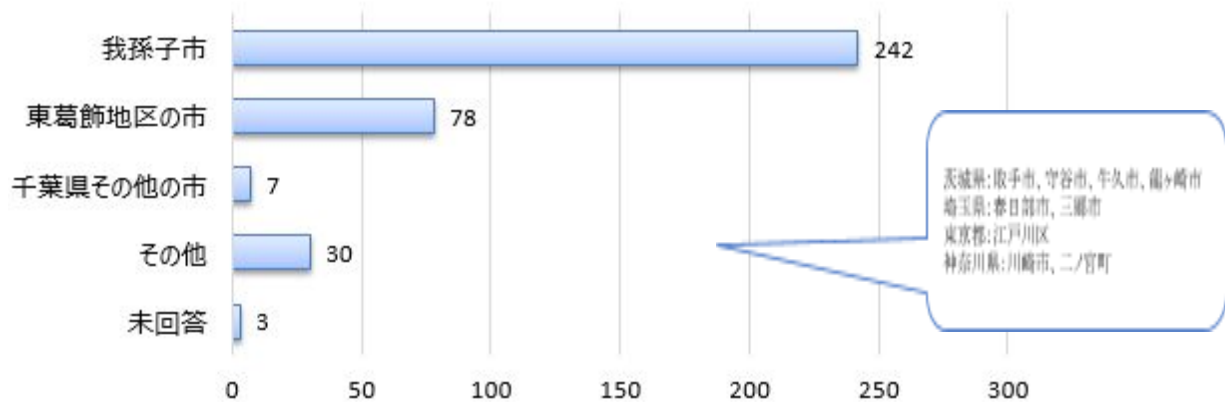
2. 性別



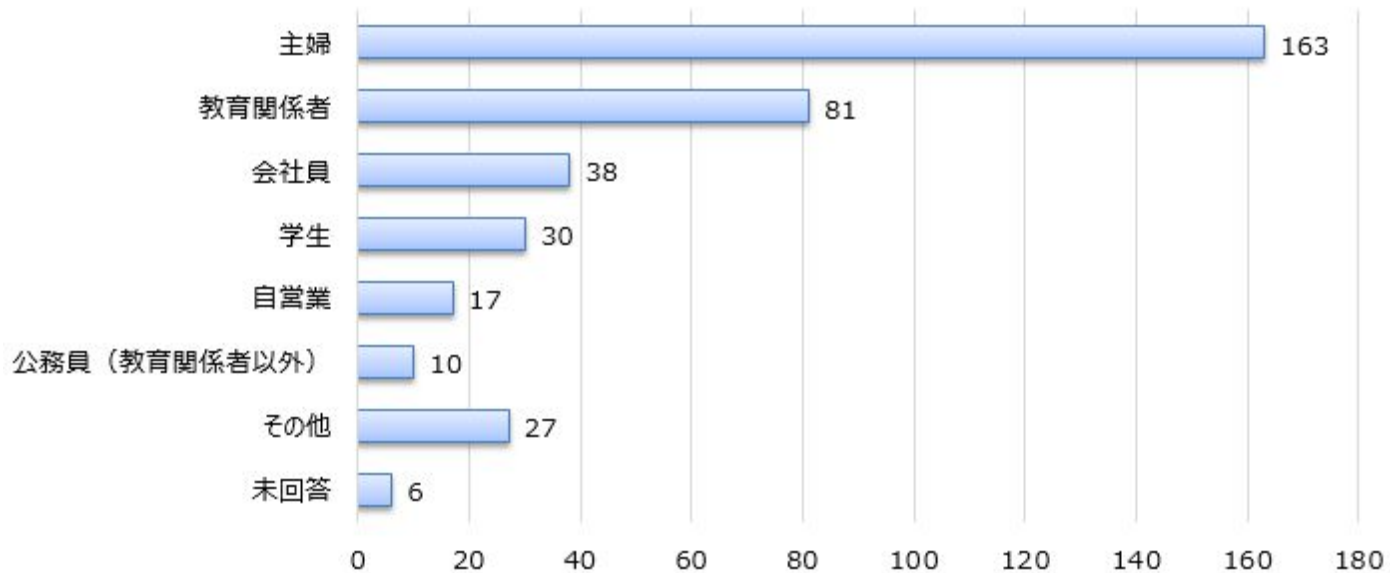
3. 年齢



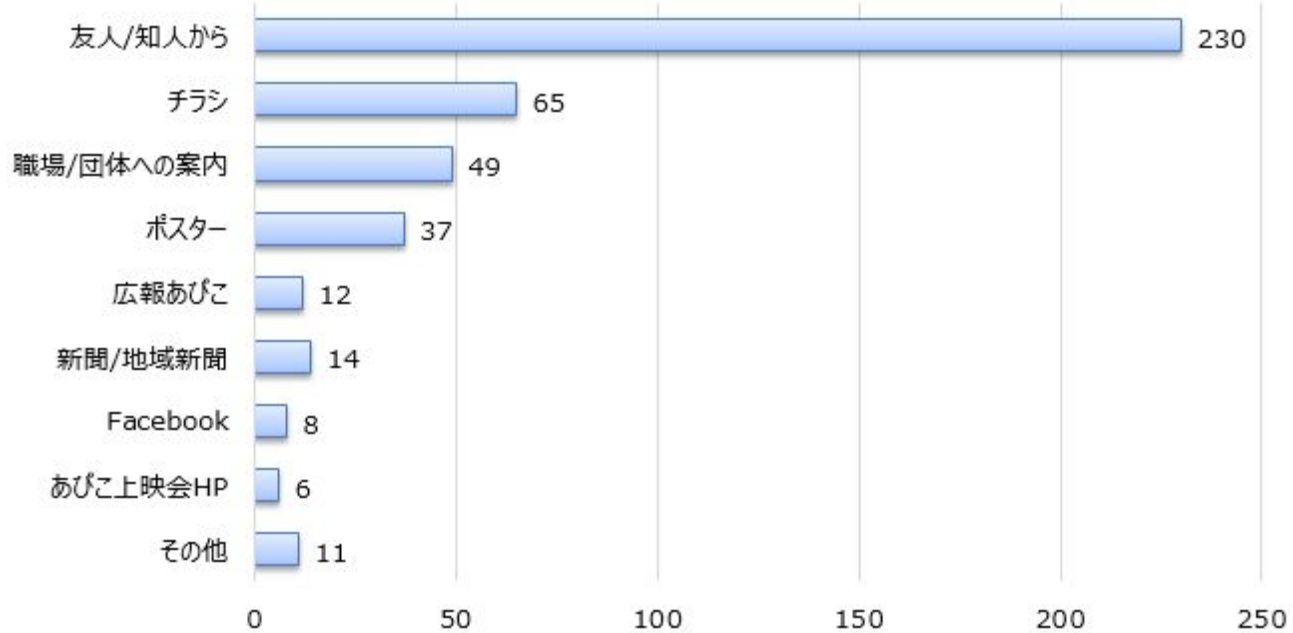
4. お住まいはどちらですか？



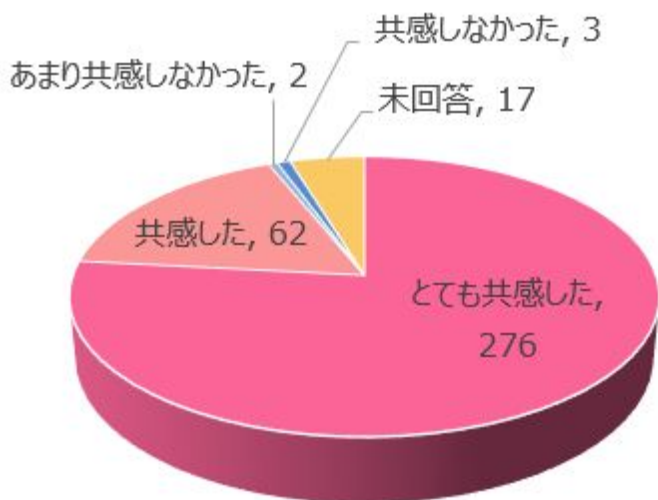
5. 職業（複数回答可）



6. どこで知りましたか？（複数回答可）



6.感想



7.自由欄（抜粋）

- どんな子でも安心出来る居場所を、子供達に作ってあげたいです。それを実感して生きた子供達は、きっと大人になった時に子供達に安心を与えてくれるだろうと思います。その連鎖を生むには、今、私達が出来る事をする必要があると実感しています。
(30代・自営業)
- 月曜日からの行動が変わる気がします。今日、この時間にこの場でこの映画を見て、皆で共有できて良かったです。ありがとうございました。(20代・教育関係者)
- いろんな子供がありのままにいられることに、一緒にいられること、あれが当たり前になってほしい。「となりにそういう子がいたら、自分はどうかと問い続ける事」「他人事ではなく自分の事に考える、関わる」大事と痛感しました。
子供、人が育つために必要なことと思います。こういう働きかけが、いじめを減らす事に繋がるのだなと思いました。このような機会をありがとうございました。(50代・教育関係者)
- 子どもたちの未来には、みんなが共に生活しあう世界が必要。今は別々すぎて大人になって障害のある方々と出合ってもどうすればいいかわからない。(40代・主婦)
- 子どもを育てていく上で”チーム”となって育てることを再確認しました。“子どもの言葉一瞬一瞬は本物である”本物の言葉を子どもの行動や心に反映できるように支えていきたいと思いました。(20代・教育関係者)
- 確かに特定の誰かさえないければ...という雰囲気の中3の私のクラスにもある。でも、そんな状況を打破出来る具体的な術って、自分がみんなのことを厄介者扱いしないことだと思えた。それだけでもあり、その方法があるとも。(10代・学生)
- 学校の先生が上映会にかかわっている（会場で姿が見える形で）のが一番驚いた。今まで地域に出てくることはなかったの・・・そこから（先生が気づき動くこと）変わることは多いと思う。それが今日一番うれしかったことです！
～地域には力を貸してくれる人がたくさんいますから～子どもの表情が刻々と変わるのに驚きました。受け止めてくれる人がいて居場所になるのですね。(70代以降・主婦)
- 障がい児を持つ母親の一人として、とても興味深く、貴重な時間でした。障害に対する共通の理解（その児に接する全ての人に対して）が必要となってくるとは思いますが、規模が大きい学校ほど難しいと思います。
学年全体、学校全体など組織的なサポートが必要であると思いましたが、やはり、初めの導入がとても大切になるとは思います。入学時等に障害児を理解してもらうための時間が必要であると思いました。
上映会を見て、感じたこと。それは、職員同士が共通の理解をする場をきちんともうけていること。クラスメートの1人としてではなく、1人1人にきちんと向き合っていること。それぞれ、心のバリアフリーがとっても大切であると思いました。生涯を一つの個性として受け入れていること。『困った子供=排除』ではなく、どうやったら授業ができるのか！

「大人の自分がほんの少しかわるだけで「みんなの学校」はどこにでもつくれます。」木村先生の一言。心強く光が見えました。

年中の子供が入学するまであと2年程。物事を前向きにとらえ、この我孫子市立の小学校に入学できるように動いていこうと思います！！ありがとうございました。（30代・主婦）

- こんな先生に出会いたいです。何度も涙が出ました。（40代・主婦）
- 今の小学校を見ていると、能率、効率、平穩にという感じがあるが、子供の事を第一に考えた学校が日本にもある事を知り驚きました。現場で働いている教員の方々に、是非観て頂きたいです。（年齢未回答・主婦）
- （共感しなかった）が、感動はしました。（60代・主婦）
- 「自分の言葉で語る」を大切にしていることが、よくわかりました。分かりません、って答案に書いていいってこと、私は今まで分かっていませんでした。それもマル。かあと。暴力をふるいたくないって涙を流しながらみんなに伝えていて、立派だなあと思いました。自分の気持ちを、みんなの前で言うのは勇気が必要だと思いますが、聞いていたみんなも、その真剣さに自分をかえりみたんじゃないかなー。すばらしいな。（30代・福祉施設職員）
- 私は障害者の生活介護施設で働いていますが、そういった施設職員の方々にもぜひ見てもらいたいと思いました。施設内でも感情的になっておこっていたり、利用者さん自身の目線で考えていない支援員が正直なところ多く見受けられます。
大空小学校の先生方、地域のサポーターの方々は、本当に大変だと思います。本当にすごいと思います。自分自身、反省させられることがたくさんありました。見て良かったです。これからの支援に生かしていきたいと思えます。
それからぜひ、小学校、中学校、高校でも上映してほしいと思えます。先生方、子どもたち、それぞれにより影響があると思えます。ぜひ実現してほしいです。ありがとうございました。（40代・臨時生活支援員）
- 大空みたいな学校が増えていくといい。（40代・公務員）
- 子供はもちろん教師、地域の人たちがみんな学び合っているのが良くわかりました。トラブルの解決の仕方1つとってもすごく丁寧でびっくりしました。先生のやりがいは凄いいと思います。超過勤務にならないでしょうか？
映画の中には特別支援教育も必要ではないかと（本人の成長にとって）思われる子も見られましたが、その点はどうなのでしょう？地域の子がどの子も温かく受け止めてもらえる温かい学校が素晴らしいと思えます。（60代・主婦）
- 感想。。。かなり障害があったり、落ち着かない子供が多い中で、落ち着いて勉強ができないのはいか、という感想がありましたが、子供たちが自然に慣れて、いろいろな子供や人間がいることがわかり、大変な人生勉強になる環境だと思えました。最初の先入観は、良くないと思えました。（60代・主婦）
- 公立学校でいろいろな制約も多い中、このような教育が出来るのが素晴らしいと思えました。結局は「一人一人の思い」なのだと思います。これを見た方が、今近所の学校や子供の通っている学校の批判につなげるのではなく、大空小の実践から考えたことを少しでも取り入れて、手を取り合っていけたら良いのではと思えました。（40代・教育関係者）
- 校長先生の人間力が魅力的。こんな先生達だから安心して子どもを任せられる。うらやましい。我孫子には発達障害など、困っている親と子の(心の)受け皿(市、学校の中身)が少なすぎて、たまに気持ちがはちきれそうになる。（40代・主婦）
- 学校もそうだが、保育所、妊婦から地域で取り組んでいくことが大切。子ども、親が一人で悩まなくてすむような地域作りができたらと思う。（40代、教育関係者）
- 我孫子市が手厚い支援教育をしているのは分かる。発達センターに力を入れているのも分かるでも、子どもにとって意欲が増すことなのか疑問。健常の子の授業のみスムーズにしようとしているのではないか？支援クラスや学校をすすめるのは、子どもだけでなく親もキズつく。納得のいく説明が必要だと思う。（40代、学生）
- 多様を認め合えるコミュニティになれるといいですね。（50代、パート）

- 普通の学校、普通の学校とおっしゃっていたがこんなに取りざたされているのがまだ特別な学校と思う。校長が変わった後どうなったのか気がかり。管理相が同一校に9年も在職したこと自体が特別な学校それができた理由を知りたい。(60代・職業未回答)
- 障害をもつ子一人のおかげでみんな多くのことを学べた。30年間続けば町が変わる。先生社会に向けて、一つのヒントをいただけた思いです。先生が変わらなければ(変われば)、子どもが変われば、学校が変わっていく。学校が変わればまちが変わる。公立学校の果たすべき方向性に共感しました。校門でさよならさせてしまうことはたやすいけど、むずかしい子ほど学校に居場所を。まとまりませんが、本当に有難うございました。(50代・教育関係者)
- なぜ、そうしたのか?と理由を聞いて、子どもの気持ちを知ること。大切だなあと思いました。気持ちがあった後「そうだったんだね、それは〇〇だったね」と気持ちに対して返事をしてあげるところも自分自身、子育ての中でしていなかったなと気づくことができました。娘は6年生です。もっと娘の気持ちを見つけて、共に色々感じて生きていきたいです。今回は映画を見てよかったです。実行委員の方、ありがとう♪おつかれさまです。(40代・職業未回答)
- 楽しそうな学校だな。(10代・学生)
- 37年間教員をしていました。映画の中での子ども達のトラブルは担任一人が解決するのが当然の環境でした。木村校長の学校経営の中にいる職員は伸び伸びと働くことができると思いました。学校経営者の考えや行動が子ども達を幸せにします。一人一人を大切にされた教育の姿が素晴らしいと思いました。見えない教育の大切さ、見えないからこそ学び合わなければいけないことをたくさんたくさん勉強していかなければいけませんね。私もこれからもっと学んでいきます。(60代・教育関係者)
- 共感というか理想だなと感じた。熱意や環境、色々むずかしいと思う。自分の子を考え、ボーダーの子だが、そんなうまくいくか分からない。うらやましいとは思いますが、少し複雑。(40代・主婦)
- 我孫子市の小学校も障害で分け隔てなく同じ教室で学べるようにして欲しい。そのときは私も保護者として、地域住民として、サポーターとして手伝いたいと思う。上映する会の方々、どうもありがとうございました。(40代・主婦)
- 子どもたちを変えるのではなく、私たち大人が変わることが、新しい風、変化を与えられると感じました。まだまだ未熟でつまらない私でも、本気で子どもに向き合いたいと思いました。本日はありがとうございました。(20代・教育関係者)
- これからはいろいろな目をむけて自分の子どもが学校に行くようになったら見守って地域全体でがんばってみたい。(主婦)
- 我孫子があんな地域になったら、素晴らしいですね。(40代・教育関係者)

<番外編：ご来場くださった方々から直接うかがった声>

- 映画を観た夜、中学2年の娘と話しました。娘の感想は「我孫子じゃ無理だよ。我孫子の子どもにはできない。」そう言いました。今、我孫子市内の学校から特別支援学級をなくしただけでは、大空小学校のようにはない。体制だけでなく、子どもも、大人も、みんなが変わらなければ実現できないと考えたのだと思います。
- 小4の息子は「ぼくは自分の学校のほうがいいなあ。」と言いました。息子はすこし前に、目の問題が見つかり、学校の授業についていくのが難しい状況です。毎日、担任の先生にフォローして頂いています。学校でわからなかったは、家で私と勉強しているのですが、とても時間がかかり、うまく進められませんでした。先生に相談したところ「学校のことは学校でフォローしますから、お母さんは家で息子さんと遊んだり、リラックスさせてあげてください。」と言ってくださいました。おかげさまで毎日楽しく学校に通っています。「自分の学校のほうが〜」はそんな気持ちから出た一言なんだろうなあと思いました。

以上